

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行
財 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494



船の鼓動を聴く

写真・英 伸三

新年にあたって

第五福竜丸平和協会会長 川崎 昭一郎

明けましておめでとうでございます。今年も大勢の方々が第五福竜丸展示館を訪ねて下さるよう心から願っています。

ビキニ事件や第五福竜丸のことはご存じだけどもまだ来られたことのない方は、ぜひ一度足を運んで下さい。

第五福竜丸展示館の特色は、水爆実験に遭遇し被害を受けた木造漁船の実物(レプリカではない)が丸ごと保存されていることです。

インターネットにより居ながらにして海外の文化財等の映像に接することもできるようなった今日この頃ですが、実物にじかに触れることは、また違った格別な意義があると思います。

多数の人々に来館いただき、展示館の管理運営に当たるものとして嬉しく思うとともに、励まされています。一年の中で見学者が集中する時期に、館内が狭くてご不便をお掛けしていることにはたいしては大変心苦しく思っています。展示館の拡充については、かねてより東京都にお願いしているところですが、一日も早くかなえられることを望んでいます。

狭いながらも、来館者が船体と体面でき、船全体を俯瞰することにより心に刻んでいただけるようにすること、背景説明を含め館内の展示物については思い切って厳選、アップ・ツー・デートにし、文章説明も簡潔に分かりやすくすることなど、さらに工夫を加えたいと思っています。

初めての方にも、重ねての方にも、よかったですと思っただけの展示館でありたいと努めています。

第五福竜丸のエンジンの引き揚げもあって昨年は、和歌山、東京を始め、改めて市民の間で第五福竜丸とビキニ事件にたいする関心が高まりました。第五福竜丸展示館を媒体としてつぎつぎに平和への創意が生まれていることは、素晴らしいことです。

二十一世紀へ向けて多くの論議がなされていますが、核兵器が世界に厳然として存在している以上、核兵器の危険性を知らせ、それをなくす努力を第五福竜丸とともに進めることは引き続き私たちの重要な責務であります。

世界にも例を見ないこの様な貴重なミュージアムが東京に存在することを私たちは誇りに思います。皆様の第五福竜丸展示館への変わらぬご支持とご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。あわせて、皆様の今年を通してのご健康とご発展をお祈りする次第です。

展示館の事務室新設工事始まる

新年度からの展示館本格修理と船体補修工事も決まる

二月末、展示館の事務室がやっと実現します。基礎工事も旧年中に着工しました。展示館の西側入り口に接する館外に五〇坪の「事務室兼倉庫」が建造されるもので、天井もなく来訪者と立ち話でしか対応できず手狭で難渋を強いられ、開館以来の状況がやっと改善されます。館内もその部分だけ展示スペースが「拡充」されることになり、資料閲覧・応接・会議のスペース

もと将来の「拡充」につながる解決を願ってきたことは実現できず今後に残されました。また、新年度とともに「第五福竜丸展示館改修工事」が行なわれることになり、年末に工事の工程原案が提示されました。船体の補修を含め、屋根、床、内装、外構全般にわたって改修するもので、四月起工、三カ月の準備工事を経て七月から本格工事、「船体がよく観察できるように」と二階展望

●今年も下記のようにビキニ事件記念集會を持つことにしました。ぜひご参加ください。

3・1ビキニ事件記念集會

主催 (財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区夢の島3-2
第五福竜丸展示館内 (TEL. 03-3521-8494)

●日時：1998年2月28日(土)
午後6時～8時
●会場：学生会分館(本郷)8号室
東京都文京区本郷7-3-1(東大赤門隣)
TEL. 03-3814-5541
＜地下鉄・丸ノ内線「本郷三丁目」下車徒歩8分＞

司会 協合理事 服部 学
主催者挨拶 第五福竜丸平和協会会長 川崎昭一郎
●記念講演
アメリカの世界戦略と日本の課題
— ニュー・ガイドラインの意味するもの
太平洋軍備撤廃運動 梅林 宏道
参加費 500円



川崎会長の案内で視察する中国人民軍縮協会の代表

中国から軍縮協会の代表団

昨年十二月二十一日午後、蔣光化副会長を団長とする中国人民軍縮協会の訪日団一行五名が、随員の広島平和文化センターの二名とともに、第五福竜丸展示館を訪れました。川崎昭一郎平和協会会長が館内を案内し、質問に答え、一巡したのち懇談しました。川崎会長はかつての訪中体験も語り、平和軍縮協会の元会長周培源氏をよく知っていることもあって、話がはずみました。お互いに核兵器の廃絶のため努力することが誓い合われました。

北アイルランドからDUFFY氏
一月六日、国際平和博物館会議(十一月日本で開催予定)の準備で活動する北アイルランドのDUFFY氏が来館、船の圧倒的な存在に感銘を受けたと語りました。

津市内、世界大会実行委員会、静岡県実行委員会共催
◇二月二十八日

日本原水協全国集會(静岡市内)
◇また、日本山妙法寺の平和祈念行脚が焼津へむけ二月十二日、展示館前から出発します。

●上記第五福竜丸平和協会が主催する記念集會とともに次のような行事が焼津・静岡で計画されています。
◇三月一日
故久保山愛吉氏墓参行進、墓前祭(焼津市内、日本原水協会など)
98年3・1ビキニデー集會(焼

環境問題と人間の未来①

二酸化炭素と地球温暖化

猿橋 勝子

最近では環境問題に対する関心が高まわって高い。地域的な環境汚染として、水俣病、イタイイタイ病等々、既にいくつもの経験がある。それらの原因の多くは企業側の論理に基づくものであった。しかし科学技術者側にも大きい責任があったことは否定できない。

昨年十二月一日から十一日迄、京都で開かれた「気候変動枠組条約第三回契約国会議(COP3)」には、約一万名が参加し日本最大規模の国際会議となった。この通称「地球温暖化防止会議」では、地球の未来についての展望・方策が国際的に討議されると期待されていたが、結果は各国とも自国の利益を主張したにすぎなかった。

日本は議長国を自ら買って出たのであるが、本音は何を考えていたのだろうか。地球保全に関する会議の詳しい報告と、今後の計画

の公表を期待したい。

世界の人口は近く六十億をこえるであろう。年々九千万から一億人が増加し、その八〇％は発展途上国にある。先進国でも途上国でも国の発展を願う、生産活動に力を注いでいる。そのため主なエネルギー源としては、石油、石炭、天然ガスの化石燃料である。その他に原子力があるが、ここでは化石燃料の燃焼による二酸化炭素問題を考えてみよう。

大気中の化学組成は酸素二一％、窒素七八％、アルゴン〇・九％、二酸化炭素〇・〇三六％(三六〇ppm)である。最近になってわずかの二酸化炭素が人間環境にとって、大変重要な影響のあることに気がついてきた。大気中の二酸化炭素は、今世紀初め頃は二八〇ppmと推測され、百年間に約八〇ppm、三〇％が増えたことにな

る。特に一九五〇年代の後半に生産活動が活発となり、二酸化炭素の大気への放出量が急増し、このままでは将来の気候への影響が心配され始めてきた。

二酸化炭素は一酸化炭素(CO)とは違って、それ自体毒性はない。赤外線(熱線)を吸収する特性をもつ。太陽に温められた地球は、日没とともに、天空にむかって熱を放射する。大気中の二酸化炭素はその熱を吸収する。二度二酸化炭素の毛布で地球を包んだ状態になる。この現象を毛布効果とも呼んでいる。もし毛布効果がないと、地球は日没後マイナスイ数度に冷えてしまう。大気は今世紀初め頃は、二〇年間に平均して〇・一度の上昇であったが、最近は一・三度の速さで昇温しているという。

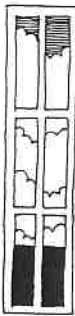
地球上の気温分布の変化によって心配されるのは、農業への影響、さらに極地の氷河の融解の問題がある。地球表面の三分の二は海面であり、海の深さは平均四〇〇〇mである。これに対し淡水の量は、海水のわずか一・八％にすぎない。淡水の大部分は極地の氷河である。私たちの生活に必要なのは淡水で

あり、海水の蒸発によって供給される。

もし極地の氷河がとけると、それは海に流れ込み海面を上昇させる。極地の氷河が一〇％溶けると、海面は約七メートル上昇することになる。ニューヨークや東京のように、海岸に近い都市は水没し、小さい島の住民は国の領地がなくなる心配している。市民の生活は言うまでもなく、産業に大打撃を与えることになる。動植物の生態系にも大変化をもたらす、地球の環境は一変するに違いない。

化石燃料の燃焼によって大量の二酸化炭素が日々排出されているが、実際に大気中に新たに残留する二酸化炭素量は、排出量の約二分の一から三分の一である。残りの二分の一から三分の二の二酸化炭素はどこへ行くのだろうか。森へいったのであろうか。海に行っただのか、一体どこへ行ったのであろうか。大きな問題点の一つである(つづく)。

(当協会理事・元日本学術会議会員)



「原爆と人間展」都政ギャラリーで開催

寺沢 茂

昨年十二月十一日から三日間、東京の被爆者団体東友会主催、東京都後援のパネル展「原爆と人間展」が、都議会議事堂一階の都政ギャラリーで成功裡に開催された。

実はこの催しは、本年結成四〇周年を迎える東友会が、四月〜六月を目標に、東京で、広島・長崎の被爆資料を展示する「大原爆展」を開催したい、については東京都の後援を得たいと、都議会各会派に要請行動中、民主党都議の方から「その前に日本被団協の作成したパネル展を都政ギャラリーでやったらどうか」との話が出て企画されたものですが、とんだところで横槍が入りました。

自民党政調会の論議を代表してということと同会副会長 田代博嗣都議から、東友会代表との話し合いの中で次のような発言が出たのです。

「展示することは大賛成だが、四〇枚のパネル中、証言の部分の三点については事実と反するし感情的であるから、カットなり訂正しない限り賛成できないし、都政ギャラリーで開催することには反対である」というのです。

さて、田代都議のこの発言に至るまでの背後に何かある、と感じとりました。東友会代表と会った当日(十一月十九日)には、田代都議、土屋都議(民主党)らが中心となり、都議会内で、東大教授藤岡信勝氏を呼んで学習会をもっているのです。東友会との話し合いの中でも田代都議は「東京都は平和記念館(祈念館)を建設しようとしているがここでも重大な問題がおこっている。わたしたちも勉強会をやっているんだ、公平・公正な立場で事実を貫きたい」とさも正しい歴史認識に立ってものを言っているのだと、威圧的に一方

的にまくしたて、東友会を従わせようとした。

では、問題の三点とは何なのか。長年、歴史教育に当たってきた者として一言せずにはおられません。

第一点「ABCが被爆者をモルモットにした」――まさに事実そのものであり、原爆障害調査委員会、医学的科学的知識をもった人たちが構成され、多くの被爆者を反強制的に呼び出し、血をとったり、体のあちこちを調べ、子どもには二〜三枚のビスケットを与えただけ、治療などは何もしてくれない。ABCをつくった当時の占領軍は国際赤十字の医療活動さえ妨害したのです。パネルのこの証言をした東友会の被爆者は展示を見にやってきて「私の証言が消されてはいないか確かめるためにきました」と冗談まじりです話していました。

第二点「日本軍がマニラで行なった残虐行為を『戦争行為』にせよ」というものです。これは永井隆氏の著書「長崎の鐘」の表紙のパネルに「禁じられた原爆体験」の著者堀場清子さんがどういいういささつその後出版されたかを解説した一部なのであり、マニラや東南アジ

ア各地で、太平洋戦争の初期に日本軍がどんな残虐行為を働いたか、数々の資料、証言、史蹟などから明らかにしています。

第三点「核の恐怖は、沖繩や被爆者しかわからないのじゃないでしょうか」――この点は原爆展を見て下さった方の感想が代弁してくれたいと思います。「怒りや悲しみはわいてくるが、苦しみや恐怖という感情は体験していない、この先未来に向けて被爆者の方の証言を大事にしたい」と。田代氏には、沖繩や被爆者の素直な感情が理解できないようなのです。

以上三点をカットなり訂正せよとの自民党政調会の態度に東友会の四人の代表は一瞬たじろぎましたが、被爆者たちはひるみませんでした。結局再度の要請に「自民党は関知しない、東友会は大人の判断でやってもらいたい」ということになり、東京都の後援を得て企画どおり展示会を成功させたのです。

三日間の参観者七百余人。知事室、衛生局の幹部、都議四十四名(うち一〇名は自民党)も含まれています。(被爆者、歴史教育者協議会会員)